

○氷見市議会議員政治倫理条例

平成26年9月26日
条例第41号

(目的)

第1条 この条例は、氷見市議会議員(以下「議員」という。)の政治倫理に関する基本となる事項を定めることにより、議員の政治倫理のより一層の向上に努め、市民に信頼される市議会づくりを進め、もって市政の健全な発展に寄与することを目的とする。

(議員の責務)

第2条 議員は、市民の信託を受けた全体の奉仕者として、自らの役割と責任を深く自覚し、その使命の達成に努めなければならない。

2 議員は、政治倫理に反するような事実があるとの疑惑を持たれたときは、自らその疑惑を解明し、その責任を明らかにするよう努めなければならない。

(政治倫理基準)

第3条 議員は、次に掲げる政治倫理基準を遵守しなければならない。

- (1) 市民全体の代表者として、法令を遵守し、議会及び議員の品位及び名誉を損なう行為を慎み、不正の疑惑を持たれるおそれのある行為をし、又はその地位を利用していかなる金品も授受しないこと。
- (2) 市又は市が資本金、基本金その他これらに準じるものを出資している法人若しくは市の施設の指定管理者(第5号において「市等」という。)が行う許可、認可、処分又は請負その他の契約等に関し、特定の者のために有利な取扱い又は不利な取扱いをするような働きかけをしないこと。
- (3) 市職員の公正な職務執行を妨げ、その権限又は地位による影響力を不正に行使するような働きかけをしないこと。
- (4) 市の職員等の採用、昇任又は人事異動について関与しないこと。
- (5) 地方自治法(昭和22年法律第67号。以下「法」という。)第92条の2の規定の趣旨を尊重し、議員の配偶者若しくは1親等の親族(以下「親族等」という。)又は法人(議員又は親族等が役員に就いているものに限る。)に対し、市等が行う請負契約等の自粛を働きかけ、市民に疑惑の念を生じさせないように努めること。

(審査請求権)

第4条 市民(氷見市選挙人名簿に登録されている者をいう。以下同じ。)又は議員は、議員が第3条に規定する政治倫理基準に違反する疑いがあると認めたときは、これを証する資料を添えて、市民にあっては法第74条第5項に規定する選挙権を有する者の100分の1以上の者の連署、議員にあっては議員の定数の8分の1以上の者の連署をもって、議長に対し政治倫理基準に違反する行為の存否の審査(以下「審査」という。)を請求することができる。

(政治倫理審査会の設置)

第5条 議長は、前条の規定による審査の請求を受けたときは、速やかに氷見市議会議員政治倫理審査会(以下「審査会」という。)を設置しなければならないものとする。

- 2 審査会は、委員8人で組織し、議員のうちから議長が任命する。ただし、審査請求を行った議員又は審査の対象となる議員(以下「審査対象議員」という。)は、委員となることはできない。
- 3 審査会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 4 審査会の委員の任期は、議長に対し事案の審査結果の報告を終了したときまでとする。ただし、議員の職を失ったときは、その任期を終了するものとする。
- 5 審査会の委員は、公平に、かつ、適切にその職務を遂行しなければならない。
- 6 審査会の委員は、その審査及び審査の結果に関し知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(政治倫理基準違反の審査等)

第6条 審査会は、次に掲げる事項について審査する。

- (1) 審査請求の適否
- (2) 政治倫理基準に違反する行為の存否
- 2 審査会は、前項の審査を行うため、審査の請求を行った者又は審査対象議員から事情を聴取し、又は資料の提出を求めることができる。
- 3 審査会は、審査対象議員に弁明の機会を与えなければならない。
- 4 審査会は、必要があると認めたときは、関係者の出席を求め、説明若しくは意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(審査結果の報告)

第7条 審査会は、その審査を終了したときは、速やかに審査結果を議長に報告しなければならない。

2 議長は、前項の規定により報告を受けたときは、速やかにその内容を公表するものとする。

(審査結果の措置)

第8条 議長は、審査会から報告を受けた事項を尊重し、政治倫理基準に違反したと認められる審査対象議員に対して、議会の名誉と品位を守り、市民の信頼を回復するため、議会に諮り必要な措置を講ずるものとする。

(委任)

第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附 則

この条例は、平成26年12月1日から施行する。